

天蚕飼料樹「エゾノキヌヤナギ」の早期成園化

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

1 部門名

蚕糸—その他—植栽様式・栽植密度・整枝・剪定

2 担当者

土井則夫・齋藤隆・根本和俊・高山博英・瓜田章二

3 要旨

天蚕の飼料樹「エゾノキヌヤナギ」は、生育期間が長く、生育が旺盛で直立性であることなど、栽培しやすく普及が進んでいる。加えて、挿し木発根性が良好なことから古条挿し木を取り入れた造成と併せて、仕立、剪定法などを明らかにした。

- (1) 苗植付、種茎直播および古条挿し木の造成法を検討したところ、古条挿し木(挿し込み間隔150cm×30cm)で活着が最も良く100%であり、最長枝条長が長く、枝条数も多かった。
- (2) 挿し穂長を5cmと15cm残して挿し木したところ、どちらも活着率は100%であったが、15cm区で最長枝条長が長く、枝条数も多かった。
- (3) 主幹長15cmは、5cmに比較して最長枝条長がやや短く、有効枝条数が多く、倒伏枝も少なかった。
- (4) 支幹数が3本、支幹長が30cmで最長枝条長が長く、有効枝条数が多い傾向にあり、支幹下部、主幹部からの発条も少なかった。
- (5) 支幹3本仕立の場合は、夏期の剪定枝の長さが50cm残しで、また、主幹1本仕立では7本残しで総枝条長が長いと推測された。
- (6) 以上のことから、天蚕飼料樹「エゾノキヌヤナギ」は古条挿し木により容易に造成が可能で、挿し込み間隔150cm×30cmで挿し穂は15cm残しとする。仕立は主幹長を15cmとし、支幹数3本、支幹長30cmとする。支幹3本仕立の場合の夏期剪定は1支幹3本残しで長さ50cmとする(図1)。また、主幹1本仕立の場合の夏期剪定は7本残しで長さ50cmとする。主幹1本仕立は支幹3本仕立で支幹部等に枯損が生じるような樹勢が低下する場合には取り入れる。

【造成1年目】

発芽前



落葉後



【造成2年目以降】

発芽前

1主幹、支幹枝条基部30cm、3本残し剪定



1回目飼育後

1支幹枝条基部50cm、3本残し剪定

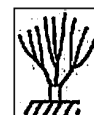


図1 エゾノキヌヤナギの造成と枝条剪定法

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成18年度～22年度センター試験成績概要